



平成 28 年 10 月 25 日

各 位

会 社 名 田辺三菱製薬株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 三津家 正之
 (コード番号 4508)
 問 合 せ 先 広報部長 御船 祥史
 TEL 06-6205-5211

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向等を踏まえ、平成 28 年 5 月 11 日に公表した平成 29 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想および通期業績予想を下記のとおり修正することとしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 29 年 3 月期 第 2 四半期(累計)連結業績予想数値の修正

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

(単位:百万円)

| | 売上収益 | 営業利益 | 税引前 四半期利益 | 四半期利益 | 親会社の所有者 に帰属する 四半期利益 | 基本的 1 株当たり 四半期利益 |
|---|---------|--------|--------------|--------|---------------------------|------------------------|
| 前回発表予想(A) | 193,000 | 38,000 | 38,500 | 27,100 | 28,500 | 50 円 80 銭 |
| 今回修正予想(B) | 204,000 | 47,500 | 49,000 | 35,000 | 36,000 | 64 円 17 銭 |
| 増減額(B-A) | 11,000 | 9,500 | 10,500 | 7,900 | 7,500 | — |
| 増減率(%) | 5.7 | 25.0 | 27.3 | 29.2 | 26.3 | — |
| (ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 3 月期第 2 四半期) | 202,065 | 49,284 | 49,703 | 34,719 | 35,713 | 63 円 66 銭 |

コア営業利益(※) 平成 29 年 3 月期 第 2 四半期(累計) 前回発表予想 38,000 百万円 今回修正予想 47,500 百万円

2. 平成 29 年 3 月期 通期連結業績予想数値の修正

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

| | 売上収益 | 営業利益 | 税引前利益 | 当期利益 | 親会社の所有者 に帰属する 当期利益 | 基本的 1 株当たり 当期利益 |
|-----------------------------|---------|--------|--------|--------|--------------------------|-----------------------|
| 前回発表予想(A) | 406,500 | 75,500 | 77,000 | 54,200 | 57,000 | 101 円 61 銭 |
| 今回修正予想(B) | 414,000 | 84,000 | 86,000 | 62,000 | 64,000 | 114 円 08 銭 |
| 増減額(B-A) | 7,500 | 8,500 | 9,000 | 7,800 | 7,000 | — |
| 増減率(%) | 1.8 | 11.3 | 11.7 | 14.4 | 12.3 | — |
| (ご参考)前期実績 (平成 28 年 3 月期) | 425,764 | 81,803 | 83,255 | 57,034 | 59,306 | 105 円 72 銭 |

コア営業利益(※) 平成 29 年 3 月期 通期 前回発表予想 77,000 百万円 今回修正予想 85,000 百万円

前期実績も IFRS ベースで置き換えています。

※当社グループは、IFRS の適用にあたり、会社の経常的な収益性を示す段階利益として「コア営業利益」を導入し、経営管理等の重要指標と位置付けています。

「コア営業利益」は、営業利益から当社グループが定める非経常的な要因による損益を除外したものです。

3. 修正の理由

第2四半期連結累計期間におきましては、売上収益は、国内医療用医薬品において、シンボニーやワクチンなど主要製品が順調に推移し、前回発表予想を上回る見通しとなりました。

利益面においては、売上収益の増収に加え、研究開発費および販管費が上期から下期へずれ込み、円高による為替影響などにより減少したため、営業利益以下の各段階利益は、前回発表予想を上回る見込みであります。

通期におきましては、売上収益は、海外ロイヤリティ収入が円高による為替影響により減収等が見込まれるものの、国内医療用医薬品において、シンボニーやワクチンなど主要製品が引き続き順調に推移し、前回発表予想を上回る見通しとなりました。

利益面においては、売上収益の増収に加え、研究開発費の発生が一部来期へずれ込むことや円高による為替影響により減少することが見込まれるため、営業利益以下の各段階利益は、前回発表予想を上回る見込みであります。

(注) 上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報を基礎とした判断及び仮定に基づいており、実際の業績等は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以上